

モデル飼料畑耕作の検討会

中央研究農場 飼料作物研究室

北海道内でのモデル栽培については早くも6年が経過しました。引き続き昭和55年より第3次のモデル栽培が開始され、この初年度の成績検討会が札幌および釧路で実施されました。要旨をとりまとめて皆様にお知らせいたします。

なお文中敬称は略させていただきます。

1 道央事業部管内（昭和56年2月4日）

（出席者）

市町村	農家名	普及所・農協	担当者氏名
北檜山町	千歩 稔	檜山北部地区農改	有賀勝太郎
黒松内町	梶田 光良	南後志地区農改	尾本 武
栗山町	寺西 正志	空地南東部地区農改	和田 良司
富良野町	志賀 正幸	富良野地区農改	種田俊一郎
名寄町	（朝日農場） 平間 勇	名寄地区農改	川島 洋三
枝幸町	山田 貞雄	宗谷南部地区農改 枝幸町農協	松岡 賢 藤岡 政一
天塩町	中村 弘	北留萌地区農改	牧野 清一

この他に会社関係者

（中野社長） 昨年からわが社のモデル飼料作物栽培の現地試験の事業にご協力をいただきありがとうございます。

この昭和56年を迎えまして農業全般はもちろん畜産業界をとりまく環境は非常に厳しいものがあります。この困難な厳しい状況をのりきるには酪農家あるいは畜産農家個々の経営内容の改善の必要性については大かたの意見の一致するところではないかと思っています。今日お集りの皆さんは優秀な経営をなされていると思いますが、よく考えますと更に経営基盤の強化をして、いわゆる国際競争力を身につけるか、あるいはもっと経営費のコ

ストダウンをするという工夫は引続いてやらなければいけないと思います。その中でえさの問題が当面最も改善できて、しかも改善効果が最も顕著に現われる経営改善のポイントではないかと思うわけでございます。そういう観点から考えますと今まで以上に良質の自給飼料の増産は緊急に望まれることです。そういう意味でもこのモデル飼料作物栽培事業というのは重要な事業の1つであると考えてとりこんでおります。

今日の会合が本当に意義ある会合で終わりますようご期待を申し上げてお礼とお願いのごあいさつにかえたいと思います。

（1） トウモロコシの部

各地の成績の概要はそれぞれの表の通りですが、以下要点を述べます。

北 檜 山

（有賀） 昨年も冷夏でとくに7月・8月が低温であった事、また一番大切な時に降雨がなかった事等があげられると思います。さらに除草剤の土壌処理をしなかったので初期生育が雑草によってかなり抑えられてしまい、除草剤の必要性をあらためて感じました。

道南ではやはり115日前後の品種がかなりの収量をあげるのではないかと感じております。品種の組み合わせについては全部を中晩生品種にするのは危険と思われますので中晩生7：中生3の割合で中晩生品種を主体にしたら良いと思っています。

（千歩） サイレージ調製時の水分調整に苦労しています。特に大型サイロを持つ農家の中で40戸の農家に2次発酵がありましたが、この原因は水分によるものでした。

（中野） 最近はやりが機械的になった結果、踏み

表1 北檜山町豊岡 農家名 千 歩 稔氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg/10a	生総重中 のT D N 比 %	風 乾 物 総 重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg/10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
N110日(JX162)	8月10日	8月14日	263	113	黄 後	7,657	17.4	1,899	45.4	1,336	1,728
N115日(JX188)	12	15	275	104	黄 中	8,064	20.7	2,279	56.0	1,669	2,479
J X 180	13	20	290	140	黄 中	7,897	18.9	2,095	48.2	1,490	2,120
P中生(P3715)	10	18	288	106	黄 後	8,834	19.8	2,424	51.4	1,745	2,401

播種期5月18～19日 発芽期6月3～5日 栽植密度7,200本/10a (70C×20C)
 堆肥6t/10a土改資材 化学肥料S382—100kg/10a
 収穫期10月13日 除草剤6月18日ゲザプリム
 倒伏10%：P3715, 25%：JX188, 30%：JX180

こみというものを殆どしない所に基本的な問題があるのではないかと思います。

(有賀)20戸ばかりの調査ですが、やはり調製の3原則を守っていない農家に多発している傾向があります。

(岡田)10月13日という収穫期はいかがですか？

(有賀)複合経営という事を考えますと、もう少し遅くても良いのではないかと考えています。霜害の問題については道南ではそれほど重要に考える必要はないと思います。

黒 松 内

(尾本)黒松内は同じ道南地方ですが北檜山と違いまして夏場温度があがりません。現在は収量を追うという事で晩熟の115日が $\frac{1}{3}$ 前後つくられています。

(岡田)粘土地という事でいろいろむずかしい問題もあると思いますが、播種期をもう少し早めることは可能ですか？

(梶田)秋耕しをしても春の作業は遅れないという人もいますので、昨秋に畑の $\frac{1}{3}$ を秋耕してみまし

た。今年どんなものかと思っています。やはり早く播きたいですから。

(岡田)品種はどうですか

(尾本)黒松内町は北海道で日本海と太平洋にはさまれた一番細い所で、両海からくる風がぶつかる所なんです。ですから条件が悪いのでもう少し熟期の早いものの方が良い感じがします。

栗 山

(寺西)試験の目的は稲転圃場における青刈トウモロコシ品種の比較と栽培技術を確立することでした。稲転圃場という事で土壌条件が恵まれていない中での試験栽培であり、排水不良により作業が遅れ、播種期も遅れました。6月5日に播種して10月8日に収穫したわけですが、P早中生Aが刈取適期にあったようでした。また全体的な収量でみますとW110日、N105日、N115日等が多収でした。

(岡田)稲転圃場に飼料作物をつくる場合、水田という特殊性が問題ではないかと思います。高水位の圃場は減収をまねくので十分に排水をするこ

表2 黒松町西の沢 農家名 梶 田 光 良氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg/10a	生総重中 のT D N 比 %	風 乾 物 総 重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg/10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
J X 180	8月8日	8月13日	264	155	乳 後	7,575	13.1	1,548	22.0	992	1,424
E X P 15	6	10	239	104	黄 後	6,427	14.4	1,370	35.3	927	1,333
N115日(JX188)	9	15	265	127	乳 後	7,817	12.7	1,525	24.8	989	1,606
N110日(JX162)	5	9	243	115	黄 前	5,212	15.0	1,157	35.1	782	1,212
P中生(P3715)	7	10	242	116	黄 前	5,212	15.5	1,204	33.8	808	1,212
※ J X 180	9	13	259	151	乳 中	8,744	11.8	1,584	25.2	1,029	1,630

播種期5月20日 発芽期5月29日～30日 栽植密度 6,060本/10a (75C×22C)
 堆肥 2t/10a 土改資材炭カル100kg/10a 化学肥料S382—100kg/10a
 収穫期10月1日 除草剤5月22日ラッソー、6月28日ゲザプリム
 注)※JX180密植栽培試験7,410本/10a (75C×18C)

表3 栗山町御園 農家名 寺 西 正 志氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中 のT D N 比 %	風 乾 物 重 量 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
N 95日(JX192)	8月15日	8月17日	283	123	乳 後	4,978	15.3	1,169	25.8	761	1,016
N 95日(SH145)	12	14	268	111	糊 前	5,064	16.2	1,246	28.2	819	964
N105日(JX122A)	19	23	286	115	乳 後	5,926	15.6	1,381	32.4	924	1,584
P早中生A(C535)	8	11	275	101	黄 後	4,530	17.1	1,118	41.4	775	1,100
N110日(JX162)	17	22	277	105	乳 中	4,961	14.6	1,143	18.8	723	792
P 中生(P3715)	18	22	289	112	乳 中	5,495	14.9	1,248	27.2	817	1,223
N115日(JX188)	19	24	288	119	乳 中	6,123	15.3	1,462	22.6	939	1,214

播種期6月5日 発芽期6月16～18日 栽植密度 6,733本 / 10a (67.5C×22C)

堆肥 8t / 10a 土改資材 炭カル 450kg / 10a 化学肥料13—18—12—5—80kg / 10a 熔 燐 100kg / 10a

収穫期10月8日 病害 ススモン病一少, SH145, C535, JX162,

倒伏 5% : JX92, JX122, C535, 10% : JX162, P3715, JX188

とが大切です。それと、もう一つは作業体系の面とのからみ合いで播種期ならびに収穫期をどの時点にもっていけるかという事です。それによって熟期の面からの品種の選定もあろうかと思ひます。

(和田) 5月15日頃に播種を予定していましたが耕起後降雨があり、作業ができませんでした。そしてその後田植えになってしまい播種が遅れてしまいました。収穫については9月15日前後の稲刈前と稲刈が終わった後でサイレージとして詰めるという2つの面を考えています。またJ X 122 A, J X 188等は稲刈後の品種として期待できると思ひます。

名 寄

(川島) 6～9月の降水量が283mmと平年の半分以下であり、かんばつがとてもきびしかった事と積算気温で140℃低いと、相対熟度で10日前後の差がでたのではないかと考えています。またアブラムシが著しく発生しました。品種については相対熟度の遅いN 105日, N 110日でも朝日農場の基幹品種であるN 95日と大差がなかったという

表4 名寄市朝日 農家名 平 間 勇氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中 のT D N 比 %	風 乾 物 重 量 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
N 95日(JX 92)	8月6日	8月10日	252	109	黄 前	6,169	16.3	1,457	39.8	1,004	1,492
N 95日(SH145)	6	11	247	97	糊 後	6,008	15.6	1,366	38.3	935	1,465
N105日(JX122A)	12	16	264	122	乳 後	6,784	15.0	1,519	32.6	1,017	1,637
N110日(JX162)	15	19	271	103	糊 前	7,429	13.7	1,498	36.4	1,018	1,810

播種期5月24日 発芽期5月30～6月2日 栽植密度 5,861本 / 10a (70.5C×24.2C)

堆肥 6t / 10a 土改資材 炭カル 300kg / 10a 化学肥料10—16—10—95kg / 10a

収穫期10月3日 除草剤 5月23日エブタム, 7月2日ゲザプリム

結果でした。

(平間) F₁ トウモロコシの圃場は全部で16haあり品種は95～110日クラスのをいくつかついています。基幹品種はN 95日(J X 92)です。また平年であれば早生種(95日)も霜にあたりますがサイレージ調製からみれば霜があたった方が調製しやすく、霜が1～2回あたって問題はないと思ひます。

(三浦) 道北地域は春先きのかんばつがここ10年位きつくなってきているので土壌水分の多い時期に早く播く事が大切です。

枝 幸

(松岡) 気象状況は他地区と同様ですが、オホーツク海側であり低温・日照不足という悪い条件の中で経過しました。生育については平年に比べ15日前後遅れ、結果はあまり良くなかったです。

(山田) 実際につくってみて私たちの地区では75日を基準にしたトウモロコシでなければ確実に実をつけることはできないと思ひました。

天 塩



(牧野) トウモロコシの作付面積が急増している中で作り方に問題があります。特に1本立については関心がうすく、また播種時期が遅れる傾向にあるのでこの点を指導していきたいと思います。品種については95日ぐらいまでの品種におさえたいと思っています。

(2) 緑肥作物

富良野市

(種田) 富良野地区は野菜栽培で地力対策は極めて重要な問題です。2万haの耕地面積のうちタマ

ネギ：1200ha，ニンジン：1700ha栽培され更に増加の傾向にあり，かなりの頻度で作付され，特産地化されています。その中で根本的には輪作体系等を組み，地力対策の検討をしていかなければなりません，一戸当たりの作付面積が少ないので休閑等して地力培養をすることはできません。したがって作付をしながら地力培養できる緑肥の開発をお願いしたいと思います。去年はメロン畑でソルゴー栽培という休閑緑肥の試験を行ないました。しかし異常低温下で生育はあまり良くなかつ

表5 枝幸町上音標 農家名 山田 貞雄氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中 のTDN 比 %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
ワセミノリ(SH250)	7月31日	8月9日	237	70	糊 中	6,049	14.4	1,217	49.8	871	1,608
N 75日(JX 22)	31	10	236	88	糊 後	6,259	14.1	1,268	41.6	879	1,364
ワセホマレ	31	9	251	55	糊 後	6,084	19.0	1,567	58.1	1,156	1,434
N 85日(SH 10)	8月2日	11	242	74	糊 中	6,923	13.7	1,345	45.3	946	1,678
P早中生A(C535)	3	11	249	84	糊 前	6,993	11.7	1,201	36	815	1,364

播種期5月16日 発芽期5月30日～31日 栽植密度 6,993本 / 10a (65C×22C)
堆肥 3t / 10a 土改資材重焼燐50kg / 10a 化学肥料S382—100kg / 10a
収穫期10月6日

表6 天塩町南川口 農家名 中村 弘氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中 のTDN 比 %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
N 85日(SH10)	8月8日	8月10日	232	79	黄 中	7,247	16.6	1,686	48.8	1,202	1,887
N 95日(JX92)	17	20	266	99	糊 前	7,444	16.0	1,797	30.6	1,193	1,535
N95日(SH145)	13	19	276	110	糊 後	7,411	14.9	1,637	34.2	1,104	1,453
P早中生A(C535)	7	9	252	84	黄 前	6,720	17.9	1,726	42.5	1,201	1,538
ワセホマレ	9	12	235	54	黄 後	7,411	14.8	1,536	48.6	1,094	1,709
N105日(JX122A)	20	23	278	117	糊 後	8,630	13.7	1,803	27.2	1,181	1,581
ワセミノリ (SH250)	8	10	231	86	黄 後	7,313	16.7	1,722	47.3	1,220	1,789

播種期5月23日 発芽期6月4日 栽植密度 6,588本 / 10a(66C×23C)
堆肥 5t / 10a 土改資材炭カル 450kg / 10a 化学肥料S482—100kg / 10a
収穫期9月29日 除草剤6月6日 ラッソ，ゲザプリム
倒伏10%：SH145，ワセホマレ，20%：SH10，C535，40%：JX92，JX122A，SH250



たようでした。ソルゴーはセンチュウ対策に使える作物なので低温伸長性のある品種について検討したく、また収量が多いF₁ トウモロコシを緑肥として利用することも今後検討していきたいと思っています。

(3) 根菜類

枝 幸 町

(松岡) 枝幸町で行った飼料用ビートは4月4日に播種し、5月16日に移植をしましたが移植直後の風害が甚しく生き残った苗を再度移植しました。その他の問題点はあまりなく、収穫調査の結果、直播区(5月18日播種)と比較すると移植区は根部が50%程度増収であり9 t/10 a程度の収量をあげました。またシュガーマンゴールドとモノパールを比較すると生収量では殆ど差がありません。

天 塩 町

(牧野) 天塩地帯においてもビートにとってはとても豊作な年でしたが、その中で中村さんの所はモノパール16.7 t/10 a、バーレスストリーネ14.2 t/10 aの収量をあげることができました。中村さんとしては今後は貯蔵性の高いモノパールにしたかったとのことでした。

(4) 牧 草

播種1年目なので成績等については次年度以降に申し述べるとして、播種当年の状況等について報告いたします。

北 檜 山

○アルファルファ主体草地

播種後71日、 $\frac{1}{2}$ 開花でI番草を収穫し、II番草は84日後に収穫しました。秋の状態は全般的に良好な畑でした。

黒 松 内



○アルファルファ主体草地

(尾本) ヒエの発生が甚しく、アルファルファを生かすためにクサガードを散布しました。そのために随伴草種のペレニアルライグラスは壊滅的ダメージを受けました。

○オーチャードグラス主体草地

(梶田) 生育不良で8月7日に掃除刈りをしました。その後刈取は行ないませんでした。

栗 山

○チモシー主体草地

(和田) チモシーを主体とし、若干のアルファルファを組合せましたが今後アルファルファを残す方向で考えていきたいと思っています。

○オーチャードグラス主体草地

オーチャードグラスの発芽が不良であり、マメ科率が非常に高かったため、今後の植生に不安があります。

名 寄

(平間) アルファルファの混播相手としてオーチャードグラス(ヘイキング)=I型、チモシー(ホクオウ)=II型の2つの組み合わせがありますが、1年目としては播種後降水不足のため発芽・生育共に不良でした。

枝 幸

(松岡) フロストシーディングを試みましたが、初冬の不良気象でアルファルファ種子に胴割れが生じました。しかし、発芽には影響ないと思われます。

天 塩

○アルファルファ・チモシー混播草地

(牧野) 雑草は全くありませんが、ブロードキャスターで播種したため播きムラを生じてしまいま

した。

最後のあいさつ

(三浦) モデル栽培の終局目的は自給飼料の低コスト生産にあります。そして低コスト生産の実現は良質、多収によって期待できます。そのためには草種・品種の選定と栽培方法の確立が必要です。モデル栽培はこれの実践を行い、夫々の地区での可能性を追求しようとするもので、今日は現地の生の声を聞かせていただきまして誠にありがとうございました。今年も御協力をお願いいたします。

2 道東事業部管内(昭和56年2月6日)

(長谷部事業本部長) 社会環境・酪農情勢がきびしい中で自給飼料増産に役立ちたいと思い、約8年前より現地の人々と問題にとりくんできたわけです。その中で畑酪兼業の方がいらしたわけですがモデル栽培を通じ、自信を持ち酪農専業に切り換えた人、また北海道の共進会で優秀な成績をおさめた人もいます。これらの事は我が社の仕事の進め方がまちがっていないことを示すものと思っています。最近では低コストの自給飼料生産が必要となってきましたが、自給飼料生産の見直しという意味からもモデル事業栽培は意義が深いものではないかと思っています。私共としては酪農家に役に立つ技術の提供をしておりますが、それも農家の叱咤激励があってこそ生きてくるものであります。今日の成績検討会を有意義にすごしてほしいと思います。

(1) F₁ トウモロコシ

北 見

(長野) 特に5月下旬乾燥し、一部品種に発芽不良がでました。SH 145 は JX 92 よりも出穂は若干

(出席者)

市町村	農 家 名	普 及 所	担当者氏名
北 見 市	平 田 義 雄	北見地区農改	長 野 宏
音 更 町	前 田 義 夫	十勝北部地区農改	井 芹 靖 彦
標 茶 町	山 谷 守	釧路北部地区農改	能 勢 公
別 海 町	内 山 幹 夫	南根室地区農改	三 浦 俊 一

この他に会社関係者

早かったのですが、後半 SH 145 の方が生育が若干遅れました。また晩生品種は7月下旬からの干魃、低温、日照不足で草丈の伸びが不良でした。そのため晩生品種の熟期が遅れたので早中生系がとくに良く、T D N 収量では N 95 日が最も多収でした。

(平田) 今までは105日主体と考えていましたが今年は85日、95日、P早中生Aを入れ、大幅にかえようかと考えています。

(能勢) 成績をみますと SH 10 は稈長が極端に低いわりに収量があり熟期も進んでいますが、これだけ気候のよい北見で6,600本/10aは適正なのでしょうか。

(橋爪 中央研究農場) 栽植密度は6,000~6,500本が基本だと思います。

音 更

(井芹) 早生系主体で多収でした。とくに SH 145 は T D N 収量で1.2 t/10aと高いものでした。音更町全体ではかんばしくなかったわけですが、ここに限れば満足した結果でした。

(前田) 発芽は早かったのですが一部発芽不良が生じました。例年はヒエ対策にラッソーを散布しますが今年は散布しませんでした。また収穫は9月27日で機械のチャーターした関係でやむを得ず早く収穫しました。できれば10月に入ってから収穫したいと思っています。

表7 北見市川東 農家名 平 田 義 雄氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中の T D N 比 %	風 乾 物 重 kg	乾総重中の 雌穂重比 %	T D N 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
P早中生A(C535)	7月26日	7月31日	231	89	黄 前	4,587	19.1	1,217	51.3	876	1,370
N 85日 (SH10)	25	29	203	76	黄 後	4,571	18.2	1,182	45.5	832	1,205
N95日 (SH145)	30	8月 2	241	98	糊 後	5,066	16.8	1,261	34.7	851	1,106
N95日 (JX 92)	8月 1	7	255	116	黄 中	5,577	17.0	1,397	36.8	950	1,188
N105日 (JX122A)	7	15	284	149	乳 後	5,148	14.6	1,154	26.5	754	957

播種期5月15日 発芽期5月26日~28日 栽植密度 6,600本/10a(72.7C×20.8C)
堆肥 4 t/10a 土改資材炭カル 150kg/10a 化学肥料S382-100kg/10a 熔燐90kg/10a
収穫期10月2日 除草剤5月17日ラッソー

表8 音更町営

農家名 前 田 義 夫 氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中 のT D N 比 %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
ワセホマレ	7月26日	8月1日	291	89	黄 後	4,515	22.8	1,501	38.7	1,029	1,127
ワセミノリ(SH250)	26	1	277	102	黄 後	6,440	18.1	1,605	54.0	1,166	1,715
N85日(SH 10)	28	4	275	107	黄 中	7,000	16.0	1,575	47.8	1,118	1,547
N95日(JX 92)	8月4	11	333	143	黄 前	6,965	15.8	1,571	44.6	1,102	1,320
N95日(SH145)	4	11	298	109	黄 前	8,260	15.5	1,849	40.6	1,277	1,670

播種期 5月17日 発芽期 5月25～27日 栽植密度 7,000本 / 10a(66C×27C)

堆肥 2t / 10a 土改資材 化学肥料S018—100kg / 10a

収穫期 9月27日 除草剤 6月15日ゲザプリム

表9 標茶町磯分内 農家名 山 谷 守 氏

品 種 試 験 区	抽 出 期		草 丈 cm	着穂高 cm	熟 期	生 総 重 kg / 10a	生総重中 のT D N 比 %	風 乾 物 重 kg	乾総重中 の雌穂重 比 %	T D N 収 量 kg / 10a	雌穂生重 kg
	雄 穂	絹 糸									
ワセミノリ(SH250)			251	99	乳 中	5,409	11.2	915	29.0	604	1,222
N75日(JX 22)			248	93	乳 後	5,045	13.3	1,011	31.3	673	1,086
ワセホマレ			260	82	乳 中	4,491	12.6	868	25.8	566	929

播種期 5月23日 発芽期 6月7日 栽植密度 8,170本 / 10a(73C×17C)

堆肥 3t / 10a 土改資材炭カル 300kg / 10a 化学肥料S382—100kg / 10a 重焼燐60kg / 10a

収穫期10月4日 除草剤 5月26日 ロロックス, ゲザプリム 7月26日 ゲザプリム

倒伏 SH250—48%, JX22—32%, ワセホマレ16%

注) 実測栽植密度 SH250—8,014本, JX22—8,137本, ワセホマレ—6,753本

(井芹) 子実の充実度は例年より悪く、調査の結果特に、今年は水分が高いものでした。また共励会を毎年やっていますが、それによると栽植本数が平均7,900本/10aと高い結果によるものと思われました。

標 茶

(能勢) F₁ トウモロコシの作付面積は急速にふえています。本年は乳熟後期前後の品種を得ましたが農家の方々はまだまだ栽培については不安定であると感じられた年ではないかと思ひます。またこのような年であればF₁ トウモロコシを作りなさいとは安心して言えません。品種間差については一定の傾向は見あたりませんでした。

(山谷) 感じられたことは栽植密度が多すぎると反省しています。天候不良ということで収穫時期は遅らせましたがそれでも水分が多く、糊熟期のものは見あたりませんでした。

(能勢) 去年並の天候では6,000本が良いと思いますが収量の面からはやはり7,000本前後と思います。また9月11日の台風で倒伏がみられました。

別 海

(三浦) 6月中旬以降の低温で殆どが乳熟期でした。ワセミノリ (SH 250)・ワセホマレ・JX 22 の3品

種が熟期が乳熟後期と進んでいましたが、これらの中でSH 250は収量では若干劣ったものの雌穂割合が高い特徴ができました。

(橋場 別海営業所) 草地更新をするという中で収量5t/10aをあげるトウモロコシが欲しいと思います。別海には別海のトウモロコシを探していかねばなりません、別海の場合も秋耕しなどを行ない5月25日以前に早播きできる体制をつくる必要があると思います。

(内山) ヘイゲンワセ・ワセホマレは大差ありませんが、熟期的にはヘイゲンワセの方が若干早く魅力がありヘイゲンワセを残しておいてほしいと思います。

(2) 牧 草

道央事業部の検討と同様初年目であり播種当年の状況等について報告いたします。

北 見

○アルフィルファ主体草地

(平田) 除草剤を散布しましたがヒエ・アカザ等の雑草が多く、I番草刈取時には雑草の方が多い結果となりました。I番草刈取後もヒエの発生があり、ヒエにいためつけられた1年目でした。またヒエの多かった所は秋に裸地化が認められました

(岡田) III型品種のソアを使った圃場とIV型品種であるライゾーマを使った圃場を設定しており、これについて更に検討していただきたいと思います。

音 更

(井芹) アルファルファ主体草地にラジノクロバを入れた圃場と入れない圃場を造成しましたが、ラジノクロバを若干加えた方が良い収量を得ました。特に処女地についてはラジノクロバを入れた方が良いという感じをうけました。除草剤としてはMCPBとプリマージの散布をしましたが、MCPB 200 cc/10 aの利用でも効果がありました。

(前田) アルファルファはかんばつに強いので砂壤土へ栽培しましたが、かんばつの影響で初期生育が悪く低収でした。2年目以降に期待しています。

標 茶

(能勢) アルファルファの栽培の希望が多い中で試験を行なってみました。磯分内ではシバムギが多くそれが心配です。雑草によりアルファルファの定着はむずかしいものがありますが、秋の状態は全体的にはきれいでした。

別 海

(三浦) アルファルファの別海地域での栽培は少なく、そういう事も理解した上で試験を行なっています。それと放牧期間の延長という事で主に2つの設計をしました。アルファルファ草地の方は秋の状態でもマメ科が80%程度ありました。以前普及所で展示圃を作った時と同様で、長く使う畑ではイネ科があまりにも少なく、アルファルファの消滅により草地が荒廃してしまう危険性があり心配しています。また、放牧タイプの利用では農家の方々はオーチャードグラスをきらい傾向にあり、チモシー主体草地でも経年化とともにケンタッキーグラスがはびこるので放牧に適した草種の選定をしたく、2年目以降更に検討していきたいと思っています。

(内山) 根釧ではアルファルファは根が伸びません。私はアルファルファを作る時は、1年目は開花までおかず、下に新芽がでてくる、播種60日頃に下の新芽を刈らないように早く刈取るようにします。また長くもたせるコツは播いた年の気持ちを忘れない事、つまり完熟タイ肥・石灰・熔リンを

2, 3年目にも与えることが大切ではないかと思います。

追 記

昭和56年(2年目)の実施状況

本年は第2年目としてそれぞれの地区において実施されております。牧草類については、各地ともアルファルファが主体で、本収穫に入っておりその成果が期待されます。またトウモロコシについては、各地域の熟期が把握されましたので、その適熟期の品種にしぼり、品種比較というよりも適品種に対する適栽培の検討ということで進められております。道内では、豪雨、台風など一部で心配な状況でしたが、9~10月に収穫調査が行なわれつつあります。本年各地で栽培されている品種をご参考までに掲載しておきます。

1. 北松山町 千歩 稔さん
N 95 日 (JX 92), RX 42 (100 日 クラス),
SH 15 (105 日 クラス), N 110 日 (JX 162)
2. 黒松内町 梶田 光良さん
RX 42, SH 15, N 110 日 (N はニューデントの略), N 115 日 (JX 188)
3. 栗山町 寺西 正志さん
SH 145 (95 日 クラス), RX 42, SH 15, N 110 日, N 115 日
4. 名寄市 朝日農場 平間 勇さん
N 85 日 (SH 10), RX 25 (85~90 日), N 95 日 (JX 92 と SH 145)
5. 枝幸町 上音標 山田 貞雄さん
ワセホマレ, ワセミノリ (SH 250=75 日 クラス),
P 早中 A (C 535), N 85 日 (SH 10)
6. 天塩町 中村 弘さん
N 85 日, RX 25, P 早中 A (90 日 クラス), N 95 日 (JX 92, SH 145)
7. 北見市 平田 義雄さん
N 85 日, RX 25, P 早中 A, N 95 日, RX 42
8. 音更町 誉 前田 義夫さん
ワセミノリ, N 85 日, RX 25, N 95 日
9. 標茶町 山谷 守さん
ワセミノリ, SH 1090 (75 日 クラス)
10. 別海町 豊原 片岡 正さん
ワセミノリ, ワセホマレ, SH 1090